

## 今日の説教のポイント<使徒言行録 2 章 1~42 節>

### ①なぜ 1872 年の出来事を思い出すのか？

ペンテコステ(五旬祭)の記事を読むと、1872 年に海岸教会の創立者たちが日本で初めてプロテスタント教会を作った時のことを思い出します。それは、彼らが「自分たちも祈りたい」と願い出た時に、宣教師バラが読み与えた聖書の個所がイザヤ書 32 章 15 節がこの出来事を思い出させるからでしょう。

ついに、我々の上に 霊が高い天から注がれる。

荒れ野は園となり 園は森と見なされる。

どちらも聖霊が降ったから起きたと考えられているのです。

### ②どちらも、そこに至るまでの経過があつて起つた出来事

しかし、どちらも何の備えもなく突然起きたものではありません。主イエスの弟子たちは、主が昇天された後、聖霊はまだ降っていないのに、これまでになく真剣な姿で約束の聖霊降臨を待ち続けました(1 章)。海岸教会の信仰の先輩たちも、宣教師によって聖書の教を学んだから 1872 年の決心があつたのでした。どちらも神様による道備えがあり、それに応えた人々に訪れた出来事だったと言えるでしょう。

### ③どちらも、同じ目的のために必要であるから起つた出来事

さらに、それぞれの出来事の後に続いたことを考えるなら、主の弟子たちも日本人初代の信仰者たちも、大胆にイエス・キリストの福音を宣べ伝える者となった点で同じです。聖霊が彼らに降つたという出来事は、キリストの福音の恵みを理解するだけでなく、それを信じて伝え行く使命が与えられていることを理解した者たちが誕生することを意味しているのです！ ペンテコステが「教会の誕生日」とされる理由はそこにあります。教会は建物ではなく、まずは信仰者の群れを意味します。さらに、教会は皆でキリストの福音を伝道するから教会なのです！

### ④神の御計画は信仰者によって、教会によって遂行されていく！

ペンテコステの個所では、個々の不思議な出来事に目を奪われるのではなく、神様の大きな御計画の一コマ(教会の設立)が確かに進められたことが大事なのです。このことを私たちが理解できるなら、それはもう聖霊の注ぎを受けているということなのです(ヨハネ福音書 16:13)！